－山口県－

長門女性部に活気を再び！

山口県漁業協同組合長門女性部
谷　村　康　子

１．　地域の概要

山口県長門市は、県の北西部に位置しており、日本海に面している。また、長門市の海岸は全域が北長門海岸国定公園に指定されており、青海(おうみ)島や、棚田で有名な向津具(むかつく)半島など、風光明媚な観光地に恵まれている。また、東日本大震災以降、AC のコマーシャルでその詩が繰り返し流された、童謡詩人金子みすゞの故郷として近年脚光を浴びている。(図１)

図１　長門市の位置図

２．　漁業の概要

長門市では主にまき網、棒受網、船びき網、底びき網、一本釣り、採介藻が営まれており、これらの漁業で、主に、アジ、イワシ、イカ、ブリ類、タイ類、アワビ類などが水揚げされている。

長門市における水揚量及び金額の推移は、平成４年には２万 2,000 トン、１０５億円あったが、平成２４年には、6,100 トン、２８億円まで減少している。

３．　グループの組織と運営

長門市には、山口県漁業協同組合長門統括支店を中心に１４の支店がある。昭和５８年にはこれらのすべての支店に女性部が組織されたが、現在では、５つの支店に女性部が残るのみとなっており、この５支店で長門女性部を組織している。主な活動は、貯蓄推進活動、生活環境改善活動、魚食普及活動である。(写真１)

写真１　山口県漁協長門女性部

４．　研究・実践活動選定の動機

長門女性部の支部数及び部員数が、最盛期の３分の１にまで減少する中（図２）で、長門女性部が再び活発な活動を続けるためにはどのようにしたらよいのか、平成２５年４月から皆で意見を出し合い、漁協や行政へも相談した。（写真２）

特に、長門統括支店に対しては、このままでは長門女性部がなくなってしまうかも知れないが、地域や漁協のためにも長門女性部を存続させることがいかに重要であるかということを話し、理解してもらうよう働きかけた。（写真３）

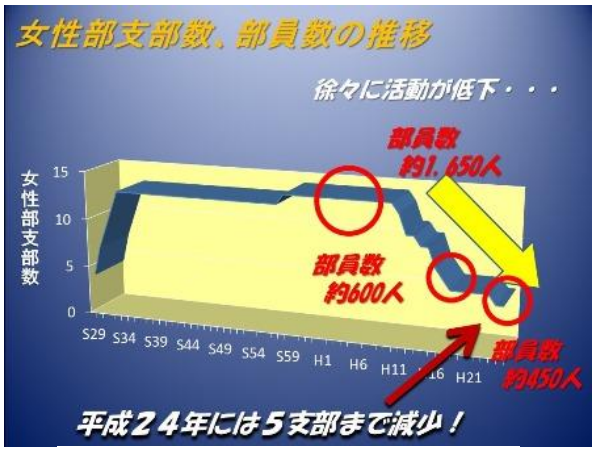

図２　支部数、部員数の推移

写真２　皆で話し合い

写真３　長門統括支店との協議

これに対し、長門統括支店も応えてくれ、統括支店全体の問題として、共に私たちの取り組みを推進してくれる体制を作ることが出来た。

そうした相談をする中で、「支部組織そのものが長門女性部の一体感の障壁になっているとも考えられるので、この際、支部を廃止し、長門統括一本の女性部とすることを検討してはどうか」という意見が出て、それに対し、「支部を廃止すると一体感が薄れ、女性部組織の弱体化につながるおそれがある。」という反対意見も出た。様々な意見を踏まえ、私たちが出した結論は、各支店に支部組織を

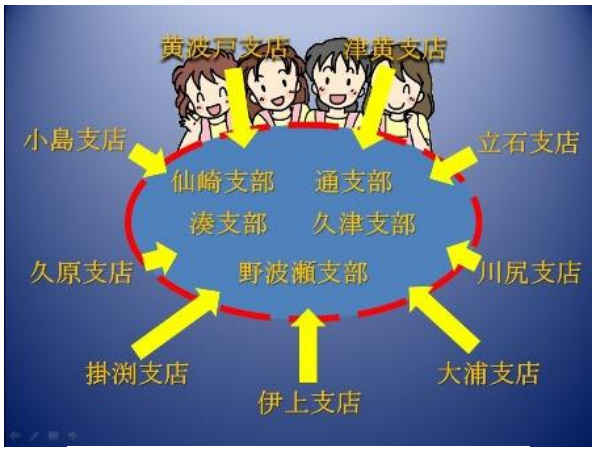

図３　枠組みを超えて活動参加

復活させる活動をするのではなく、組織の枠を超え、すでに支部組織のなくなってしまった支店の女性たちも女性部活動に参加できるようにし、その楽しさを知ってもらうことが良いのではないかということだった。（図３）

しかし、活動への参加を働きかけるにも、一度支部を解散し、女性部を脱退した女性たちを勧誘するのだから、誘う内容はできるだけ敷居が低く参加しやすい、それでいて楽しめるイベント的な活動に対象を絞り込んだ。働きかけを始める時期については、時間は少しも待ってはくれないので、今すぐ取り掛かることとした。

５．　研究・実践活動の状況及び成果

最初に、女性たちに参加してもらえそうなイベントを確認することから始めた。長門統括支店で最大規模のイベントが、「ながとお魚まつり」であり、長門女性部も鯛寿し、鯛の炊き込みご飯といったご飯ものや、うどんの販売を行っていたので、支部組織のない支店の女性たちにも、この輪の中に参加してもらい、みんなで協力しながら販売してもらったら楽しいのではないか、ということになった。

この他に、私たちにとって大変重要な行事であると同時に楽しいイベントである遊休品バザーを行う「リーダー研修会」へも参加を呼びかけることにした。

ここまで決まったところで、一緒に活動してもらえる女性を探し始めたが、なかなか大変な事で、支店の職員にも大いに協力してもらった。

今年度は、４つの支店に要請し、私たちの活動に興味を持ってくれそうな女性を探してもらうことと、勧誘のための説明会を開いてもらった。お魚まつりやリーダー研修会の様子を説明をして、イベントへの参加を呼びかけるという地道な方法で参加者集めを進めたところ、集まってくれた女性たちは、私たちの説明を熱心に聞いてくれた。中にはその場で参加を約束してくれる女性もいたくらいであった。（写真４）

写真４　勧誘活動

お魚まつりについては、まつりへの参加を通じて、再び女性部活動に興味を持ってもらい、再加入してもらうことにつなげたいという願いで取り組んだ。

まつりでは、新たにカボチャとジャガイモをベースにしたチリメンとヒジキの入ったコロッケを無料配布することとし、その製造やまつり当日の配布に協力をしてもらうことにした。

さて、前日のコロッケ作りは役員４名、呼びかけに応えてくれた６名の、合わせて１０名が集まった。みんなでワイワイ楽しく作業を進め、作業を開始してから５時間ほどで、配布するコロッケ７００個あまりが完成した。女性たちから「同じ浦浜に暮らしちょってもチリメンやらヒジキをコロッケに入れるとは思いもせんかったね」とか「家で料理の参考にさせてもらおう」などといううれしい感想が聞かれたので、み

んな一体感を持って作業をすることが出来たと思った。（写真５）

翌日のまつり本番では、呼びかけに応えてくれた女性８名と、女性部員６名の合わせて１４名が集まった。

７００個を超えるコロッケを揚げて配布するまでの準備を手分けして行ったが、うれしいことに引換券はあっという間になくなった。（写真６）

コロッケの配布時間が来ると、配布ブースの前には、長蛇の列が出来てしまい、周りからは「何、何かね、この人たちは。何の行列っ！？」とびっくりした声が聞こえて来たことを今でも思い出す。全てのコロッケを配り終えた時には、「まあ失敗がのうてえ～かったね」「まあ、そりゃあ、あなた方のおかげいね」と、和気あいあいのうちに終わることが出来、みんなが協力し合ってイベントを行う、という当初の目的は達成できたと感じた。（写真７）

リーダー研修会については、女性部員相互の交流を深め、健康や海上での安全確保など、私たちが普段気をつけなくてはいけないことを学習する場で、毎年６０名ほどの部員が集まる。

今年のリーダー研修会には呼びかけに応えてくれた女性７名が参加した。

リーダー研修会当日には長門市役所の管理栄養士を講師として呼び、健康的に生きるための食事のあり方について、様々なクイズや、実演を交えながらわかりやすく教えてもらった。

講演の後は、待ちに待った遊休品のバザーである。皆で持ち寄った物を、セリ形式で楽しみながら買うイベントだから、会場に笑い声が絶えない。参加したみんなとの親睦にはうってつけのひと時であったと思う。（写真８）

写真５　コロッケ作り

写真６　コロッケ引換券配布

写真７　配布に長蛇の列

「毎年やってのそなら、また来たいな」と、うれしい声も頂いた。今回参加してもらったことで、女性部のことを思い出してもらうのには役に立ったのではないかと自画自賛している。

写真８　遊休品バザー

６．　波及効果

今回の取り組みにより、支部のない支店から２１名の女性たちが私たちの活動に参加してくれたことから、新たな女性部組織への再編を実現させる道筋をつけることが出来た。

また、取り組み開始前から長門統括支店と連携した体制を取ったことで、女性部活動を再活性化することが“浜の元気”を持続させることにつながるとの問題意識を、長門統括支店管内１４支店全体で認知してもらう効果となって現れ、男性・女性の枠を超え、共に取り組みを推進する体制を取ることが出来た。

７．　今後の課題や計画と問題点

今年度の取り組みでは、各イベントに数名ずつ、支部のない支店の女性の参加を実現することができたものの、まだまだ女性部活動を活発にしていく、という当初の目標にはほど遠い数字でしかなかった。

来年度の目標としては、声かけをする支店を増やし、各イベントに１０名以上の参加を目指して、活動していこうと考えている。

また、今回イベントに参加してくれた女性たちを長門女性部に迎える体制づくりも必要である。（写真９）

来年度を目標に長門女性部の規約を改正し、支部に所属していない女性でも長門女性部に加入できるようにしていきたいと考えている。（図４）

そして、これからも、イベントなどに各支店の女性たちの参加を促していくことで、長門女性部の活性化に取り組んでいきたいと思う。短期間で効果の出るような取り組みではないが、このままでは

写真９　今後の取り組み

長門女性部がますます縮小していってしまうとの危機感の下、毎年、イベントへの参加の声かけを続け、数年後には、本当に支部の垣根を取り払った新たな長門女性部として活気のある活動ができるよう、女性パワーで粘り強く、一歩一歩確実に取り組んで行きたいと思う。

図４　目指す組織の姿